

1. 先天性嚢胞性腺腫様奇形を呈した死産胎児 2 剖検例についての病理学的検討

(第一病理学) 金澤美穂・柴田亮行・
澤田達男・金田良夫・小林慎雄
(産婦人科学) 熊谷万紀子・
平野郁子・角田新一・武田佳彦
(母子センター) 中林正雄

〔緒言〕先天性嚢胞性腺腫様奇形 (congenital cystic adenomatoid malformation; CCAM) は胎生期の肺内で気道系が嚢胞状に拡張する先天性疾患である。今回、我々は CCAM を呈した死産胎児の 2 剖検例を報告した。〔症例 1〕妊娠 23 週 3 日の死産男児。肺重量は左 39.5g, 右 3.0g で、左肺全体に直径 3mm 以下の嚢胞が多数存在していた。嚢胞の多くは肺泡様の立方上皮で被覆されていた。〔症例 2〕妊娠 23 週 6 日の死産男児。肺重量は左 21.0g, 右 16.0g で右肺中葉に多列線毛上皮で被覆される 50×35mm 大の嚢胞が 1 個存在しており、これに隣接して肺泡様の立方上皮または未熟な円柱上皮で構成される腺管様の小嚢胞が集簇していた。

〔考察〕自験例および文献例から、CCAM の病像は症例によって多彩であることを指摘し、さらに病因および発症時期について考察した。

2. 唾液腺腫瘍における EB ウイルス、熱ショック蛋白 (HSP) 70 の発現

(¹歯科口腔外科学, ²第二病院歯科口腔外科,
³第一病理学, ⁴病院病理科) 丸岡靖史¹・
安藤智博²・横尾恵美子¹・三宮慶邦¹・
扇内秀樹¹・小林慎雄³・西川俊雄⁴

EBV は唾液を介して感染し、既感染の器官として口腔領域では唾液腺が有力視されており、唾液腺腫瘍と EBV との関連の可能性が近年示唆されるようになってきた。高温などのストレスから細胞を守る一群の蛋白質 heat shock protein (HSP) は病原ウイルスと宿主細胞の相互作用のなかで、発現誘導されることがわかってきたが、EBV の感染と HSP との関連に関する報告はない。そこで今回唾液腺腫瘍における EBV, HSP70 の発現を免疫組織化学的に検索し、若干の知見を得たので報告した。唾液腺腫瘍組織における EBV, HSP70 の発現は Warthin 腫瘍、好酸性腺腫の腺腫部分に認められた。多発傾向のある Warthin 腫瘍、好酸性腺腫に EBV が関与し、HSP70 が EBV 感染に誘導され、なんらかの相互作用があると推察された。今後は EBV の局在の in situ hybridization 法を用いて検索し、HSP60 HSP90 などの HSP family と EBV 感染

との関連も検討したいと考えている。

3. 持続的ポリエチレン注入によるラット osteolysis model—骨吸収因子の遺伝子発現パターン分析—

(整形外科学, *第一病理学) 小林啓郎・
金 強中・伊藤達雄・小林慎雄*

〔目的〕人工関節周囲の osteolysis は Mφ が wear debris を貪食し、放出されたサイトカインが破骨細胞性骨吸収 (osteoclastic bone resorption; OcBR) を刺激し生じる。ラット膝関節に polyethylene particle が持続注入される osteolysis model を作製し、病理組織所見とサイトカインの発現をみた。

〔方法〕K-wire を大腿骨骨髄内に刺入し、particle (P) 群では particle を含む血清を注入した浸透圧ポンプを移植 (control は血清) し、接続 tube を関節腔に固定し、2 週毎に 10 週までみた。RT-PCR 法で膝関節肉芽中の TNF- α , IL-1 α , IL-6 の発現を分析し、大腿骨を脱灰後 HE と TRAP 染色を施行した。

〔結果〕P 群 4 週では肉芽が刺入部軟骨面と関節包付着部に侵入し OcBR がみられ、6 週から肉芽が軟骨下骨より骨髄へ侵入した。TNF- α は P 群 4 週から発現し、IL-1 α と IL-6 は 2 週以降の両群に発現した。

〔考察〕この model は osteolysis に起こる肉芽形成や OcBR が短期間でみられ、肉芽の分析が可能である。P 群で OcBR が起こり肉芽に TNF- α が発現し始めたので、TNF- α が肉芽形成と OcBR の活性化に重要である。

〔結論〕長期的な観察や治療の実験にも有用である。

4. Sodium methoxide による CD1a 免疫染色法の検討

(第二病理学)

金木暁岳・木川田弥生・池田郁雄・
榎本浩子・安藤明子・武雄康悦・
増田昭博・山川光徳・笠島 武

〔背景〕CD1a 抗原はランゲルハンス細胞などに表出される。CD1a はそれゆえに Langerhans cell histiocytosis などの診断に有用であるが、パラフィン切片での染色は標本により差があり、凍結切片での検索に頼っているのが現状であった。我々は、sodium methoxide による抗原賦活化 (SM 法) によりほとんどのパラフィン切片で CD1a 抗原の検出が可能であったことを報告する。

〔方法〕材料として皮膚、リンパ節等を用いた。SM 法と対照としての様々な抗原賦活化法を行い、CD1a